九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

九州大学技術研究会の創設と開催を経て

石井，大輔
九州大学応用力学研究所技術室

https://hdl.handle.net/2324/21769

出版情報：九州大学応用力学研究所技術職員技術レポート. 13, pp.99-115, 2012-03. Research Institute for Applied Mechanics, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

九州大学技術研究会の創設と開催を経て

石井　大輔

要旨

2010 年度、応用力学研究所技術室は 1997 年に組織化されて以来はじめての試みとして、九州大学内の全技術職員を対象とした「第 1 回九州大学技術研究会（2010 年度）」を開催した。開催当日は、種々の話題に対して所内外を含めた 33 名の参加者による白熱した討議が繰り広げられ、成功裏に終えることができた。

本稿では、九州大学技術研究会の創設と第 1 回開催までの経緯などについて述べるとともに、今年度伊都地区で開催予定の第 2 回九州大学技術研究会（2011 年度）にかかる現在の進捗状況などを併せて報告する。

キーワード：九州大学技術研究会・応用力学研究所技術室・技術職員有志

１．はじめに

2011 年 2 月 25 日、応用力学研究所（以下、応力研と略す）技術室は 1997 年に組織化されて以来はじめての試みとして、九州大学（以下、九大と略す）内の全技術職員を対象とした「第 1 回九州大学技術研究会（2010 年度）」[1)] を開催した。開催当日は、種々の話題に対して所内外を含めた 33 名の参加者による白熱した討議が繰り広げられた。特に最後の総合討論では九大における技術職員としての存在意義や今後の方向性などについて大変貴重な意見交換をすることができ、他人の発表をただ聴講するだけの単なる技術報告会で終わることはなかった。その光景からは、今まで知り得なかった他地区／他部局における技術職員の業務内容や考え方･関心の高さなどを垣間見ることができ、本研究会を企画し実現させた手応えを実感する瞬間であった。

本稿は、九州大学技術研究会を立ち上げた経緯や実現までの紆余曲折、そして現在進行中の次回開催にかかる活動状況の進捗などを報告したい。

２．九州大学技術研究会を企画した経緯

まず、本研究会を企画し開催までに至った経緯について説明する。

21 世紀を迎えた現在の大学は、有望な人材育成と種々の先進的研究といった教育・研究活動の充実とともに、知的発展や技術革新、環境問題解決など社会的要求に対する貢献や説明責任が強く求められる状況にあり、大学を取り巻く環境は激変したと言っても過言ではない。社会ニーズに応じる時間的制約に加え、成果志向・業績主義といった社会の風潮を受けつつ学際化も進む昨今の大学における教育研究は、年々、高度化・専門化・複雑化・迅速化の傾向にある。そのため、常日頃から質の高い専門・応用技術を提供し、広範な技術的教育・研究支援活動に従事する技術職員の果たす役割は、大学教育・研究活動の一翼を担う上で欠かせないものとして認知されている。

全国で開催される技術研究会の最近の動向に鑑みても明らかなように、大学の技術職員は従来の教育・研究支援活動だけに専念するだけではなく、常日頃から広範かつ専門性に優れた知識教養や質の高い応用・先進技術を積極的に修習し、自己の職務効率化と職能向上に尽力しなければならない。何故なら、それが今後の教育・研究支援活動への貢献に繋がるからである。また、近年全国で開催される技術研究会等での発表件数は徐々に増加傾向にあり各教育・研究機関における技術職員の積極的な活動や意識向上が散見され、ここ数年において九大を除いた九州地区の諸大学で全国規模の技術研究会が数多く開催されている。九州地区の中でイニシアチブを取ってしかるべき九大は、ここ数年における技術職員の発表実績が芳しくないことに加え、聴講参加すらあまり多くないのが現状である。このように全体的な消極姿勢の影響のためであろうか、全国規模の技術研究会開催に向けた学内における積極的な気運・動向は見受けられず、他大学に対して少なからず遅れを取っていることは残念でならなかった。

これらのことを勘案し、九大の中で誰も声を上げないなら自ら声を出そうと考えたのが事の発端である。学内における技術職員が技術研究発表や討議、情報交換を通じることで技術の研鑽やボトムアップ・技術向

上意識を共有するだけでなく、技術的・人的交流の深化による他地区／他分野間における連携強化の促進と新たな技術開拓・技術創意に繋がる一助にしたいこと、学内における種々の素晴らしい技術をアピールする場としてだけに留めず、九大における全国規模の技術研究会開催実現への気運を高める第一歩にすることを目的に、本研究会の企画と開催実現を目指した。

３．研究会開催実現までの紆余曲折

本研究会を創設するにあたり、まず応力研技術室の内部委員会である研修委員会に提案した。それは、筆者が当該委員会に所属していたことはもとより、応力研技術室は 2007 年から毎月 1 度のペースで技術発表会（室員相互の業務内容を知ることや意見交換を行うこと、九州規模／全国規模の技術研究会で口頭発表できるようにその練習を兼ねることを目的とした）を開催して、その運営も当該委員会であったためである。

最初は、応力研を含む筑紫地区全体に規模を拡大して開催することを検討した。しかし、同地区に所属する技術職員は十人以下であることが分かり大した規模拡大は期待できないと判断し、いっそのこと九大全体に拡大して全学技術職員を対象とした開催に展開することを提案し直した。

ところが、応力研技術室員にいざ提案したところ、皆々が消極的で誰も話に乗って来なかった。会議中も私 vs 残りの室員みたいな構成で全く議論が噛み合わないことが多々あった。ところが、根気よく説明し説得したお陰で徐々に皆も理解を示してくれるようになり、数度の全体会議を経てようやく九大全学を対象とした応力研技術室主催による九州大学技術研究会の開催が了承され、技術室予算の利用も承諾された。

本研究会の実行委員として、技術室内部委員会の一つである研修委員会の室員が担当することになり、実行委員会が立ち上がった。しかし、何しろ皆にとっては初めての大規模な研究会主催とあって、開催までの流れやどういった準備をするべきなのか、把握し率先して意見できる者は殆どいなかった。そのため、比較的こういうことには慣れている筆者が事務局長として先導役に徹することで他の実行委員も次第に要領を掴んでいき、無事開催までに漕ぎ付けることができた。今思えば、本研究会開催にあたっては若輩者の小生が偉そうに大半を仕切ってしまったが、最終的には皆々の懇切なる協力のもとで本研究会を成功裏に終えることができたということでお許しいただきたい。

Fig. 1　第 1 回九州大学技術研究会（2010 年度）の開催ポスターとウェブサイトの外観

４．第１回九州大学技術研究会（2010 年度）開催を振り返って

第１回開催を振り返ってみると、技術研究発表や討議、情報交換を通じることで技術の研鑽やボトムアップ・技術向上意識を共有することはもとより、学内における技術職員間の「横のつながり」の形成とその強化を進めていく上でこのような貴重な場を提供できたことは、本研究会の開催意義に鑑みて十分な成果といっても過言ではないだろう。また、研究会終了後に開催した懇親会にも他地区の技術職員が参加してくれ、酒を交わしながら大いなる親睦を深めることもできた。

Fig. 1 に、第１回九州大学技術研究会（2010 年度）の開催ポスターと研究会ウェブサイトの外観を示す。前者のデザインについては実行委員相互で様々な意見を出し合い、細部にもこだわりを見せつつ何度もリメイクして完成させた、ある意味大作である。ウェブサイトのデザインについては筆者が全て担当したのでセンスが問われるところだが、各ページの内容については不備がないよう、細心の注意を図り作製した。また、参加登録をウェブサイト経由で実行できるように、参加登録システムおよびデータベースの設計・構築も併せて行なった。この点に関しては、トラブルなくスムーズな運用ができ、個人的には大変勉強になることが多かった。Fig.2 に、開催当日の雰囲気を伝えるべく、様々な写真を掲載する。

Fig. 2　第１回九州大学技術研究会（2010 年度）の開催風景

５．第 2 回九州大学技術研究会（2011 年度）開催に向けて

第 1 回の開催は、成功裏に終えることができたのではないかと自負するが、実際における参加者数および参加地区を見たところ、大半は応力研技術室からの参加であり、他地区からの参加状況が決して良好であったとは言い難いのが現実であった（筑紫：19 ， 伊都：10 ， 箱崎：2 ， 病院：1 ， その他：1）。Fig.3 に第 1 回九州大学技術研究会にかかるアンケート結果を示すが、同図を見ても明らかなように、全学の技術職員にとって第 1 回の開催時期（卒論・修論時期による多忙）や開催場所（物理的な地区間距離による支障）が参加へのボトルネックとなった可能性が散見され、次回開催への課題として大変参考になるだけでなく、真摯に受け止めなければならない結果や意見を得た。

上記の点を踏まえつつ第 2 回の研究会開催を検討するにあたり、今後も継続した九州大学技術研究会の開催を望む一方で「九大の技術職員」として全国的な活動やアピールをするためには、学内における技術職員同士の相互連携がより一層必要となってくること、そして他地区・他部局からの九大技術職員の積極的な参加に向けた取り組み（裾野拡大）を重要視した。そこで第 2 回開催は、大所帯である伊都地区・工学系技術職員との連携強化を図ることが先決であり急務であると判断し、関係者と協議の結果、今年度における第 2 回九州大学技術研究会（2011 年度）[2] は伊都地区で開催することに決定した（Fig.4）。

実行委員会は既述の理由から応力研技術室から離れ、筑紫地区と伊都地区に所属する技術職員有志で結成し、今日まで開催に向けた準備等を行なっている。現在、様々な地区や部局の技術職員の方から口頭発表 10 件、ポスター発表 15 件、ほか多数の聴講参加登録をいただいており、今年度は昨年度以上の盛会が期待される。特に、今回は初めてポスター発表を導入した。ポスター発表は、掲示した自身のポスター前で見学者への立会説明を行なうのが通例であるが、今回は研究会参加者全員に投票用紙を配布しポスター賞の選考を行なうことを同時に企画した。これは、ポスター発表者の製作意欲に繋がるだけでなく、製作物に対して第三者による評価を受けることで今後のポスター製作へ何かしら反映されることを期待してのことである。

第 2 回九州大学技術研究会（2011 年度）を是非とも成功させ、九州大学技術研究会の更なるステップアップを図っていきたい。そして、それが九大技術職員の様々な事案に対する積極的な活動および意識改革への一助に繋がることを望んでいる。

参考文献

1) 第 1 回九州大学技術研究会（2010 年度）公式ウェブサイト（九大内限定公開）：
http://giken.riam.kyushu-u.ac.jp/2010/

2) 第 2 回九州大学技術研究会（2011 年度）公式ウェブサイト（九大内限定公開）：
http://giken.riam.kyushu-u.ac.jp/

謝辞

第 2 回九州大学技術研究会（2011 年度）を開催するにあたり、開催趣旨に快く賛同していただき経費支援や伊都地区での開催実現に向けて格別なるご支援とご尽力を賜りました応用力学研究所長　柳哲雄教授にこの場をお借りして感謝の意を表します。

また、伊都地区での第 2 回開催にあたり、会場使用要請ならびに部局協力要請に快く承諾いただきました工学研究院長　日野伸一教授に厚く御礼申し上げます。

さらには、第 1 回開催において発表予定者が急遽参加できなくなる不測の事態が生じたものの、応用力学研究所技術室　松原監壮班長には急な事案にも関わらず快く代打講演を引き受けていただいた上、専門性豊かで新規性のある話題について貴重なご講演をいただきました。この場をお借りして深謝いたします。

最後に、第 1 回開催当時において実行委員ではなかったにも関わらず、ウェブ制作関係でご協力いただいた応用力学研究所技術室　松島啓二技術職員、ならびに開催前日・当日において会場設営や開催運営にご協力いただいた応用力学研究所技術室の諸氏に敬意を表します。

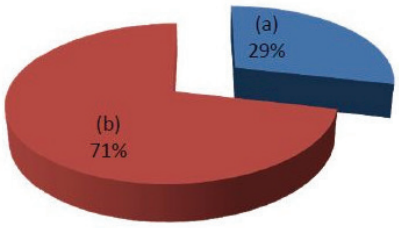
第１回九州大学技術研究会（2010年度） アンケート集計結果

第1回九州大学技術研究会（2010年度）実行委員会

開催日時：2011年 2月25日（金） 13時 ～ 17時
開催場所：九州大学応用力学研究所（筑紫キャンパス） 西棟6階
多目的研究交流室（W601）
参加人数：33名（事前登録者数：30名 ／ 当日参加者数：3名） ※技術系職員以外も含む
アンケート回収数：28名分／31名 ， 回収率：90.3 %
※技術系職員のみ，当日急遽欠席者1名からの回答も含む
設問内の表示順 ：回答数 ， 設問選択肢（＋ご意見） ， 円グラフ （※設問 10・17 は除く）

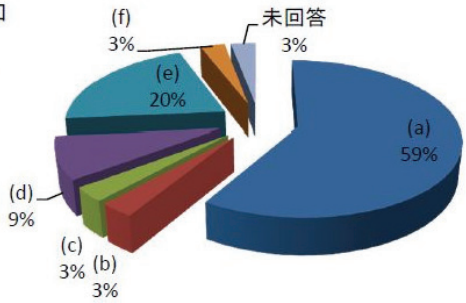
設問1. 今回の参加形態はどちらですか？

8 （a）口頭発表
20 （b）聴講



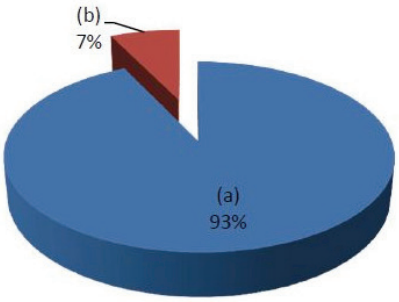
設問2. 本研究会の開催をどのようにして知りましたか？（複数回答可）

20 (a) 本研究会実行委員会からのメール通知
1 (b) 応用力学研究所 技術室HPのリンク
1 (c) 応用力学研究所（RIAM）HPのリンク
3 (d) 所属機関からの通知
7 (e) 同僚・知人からの情報
1 (f) その他
1 未回答



設問3. 本研究会参加にあたり、専用HPから参加事前登録をしましたか？

26 (a) はい
2 (b) いいえ



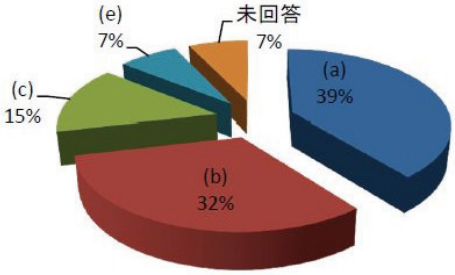
設問4.（設問3. で "(b) いいえ" を選択された方にお伺いします）
専用HPで参加事前登録をしなかった理由は何ですか？（複数回答可）

1 (a) 事前登録の方法が分からなかったから
0 (b) 事前登録の作業が面倒であったから
0 (c) 事前登録をしなくても参加できたから
0 (d) 事前登録することを失念していたから
1 (e) その他
・参加できるか当日まで不明で、14:30までしか参加できないため

Fig. 3 第 1 回九州大学技術研究会（2010 年度）にかかるアンケート結果（参加者向け）

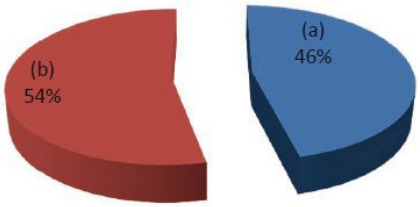
設問5. 今まで、他の技術研究会（全国規模を含む）に何回参加したことがありますか？

11　(a) ない
9　(b) 1－3 回
4　(c) 4－6 回
0　(d) 7－9 回
2　(e) 10 回以上
2　未回答



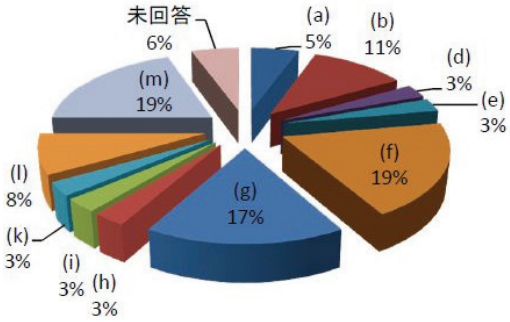
設問6. 今年度の開催時期（2月下旬）は適当でしたか？

13　(a) はい
15　(b) いいえ



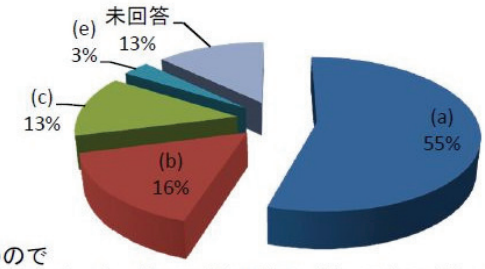
設問7. 次回開催があれば、いつ頃の開催がご希望ですか？（複数回答可）

2　(a) いつでもよい
4　(b) 4月
0　(c) 5月
1　(d) 6月
1　(e) 7月
7　(f) 8月
6　(g) 9月
1　(h) 10月
1　(i) 11月
0　(j) 12月
1　(k) 1月
3　(l) 2月
7　(m) 3月
(n) ご意見 ［ 年度末以外：2件 ］
2　未回答



設問8. 口頭発表についてどう思われましたか？（複数回答可）

17　(a) 興味深かった
5　(b) 業務に役立ちそう
4　(c) 発表内容が難しかった
0　(d) 発表分野を絞った方がよい
1　(e) つまらなかった
0　(f) その他
4　未回答

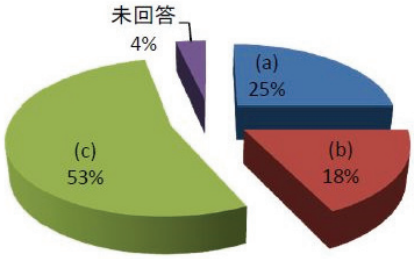


[※ご意見]
・もちろん面白いものもあった。専門が違うので分からないのはもちろんだが、ただ自分がやったこと、装置の説明だけ。詳しい事はどうでもよいことだ。それがどう役に立って他の分野でも使える等、全体的なことを話してほしい。

（Fig. 3　続き）

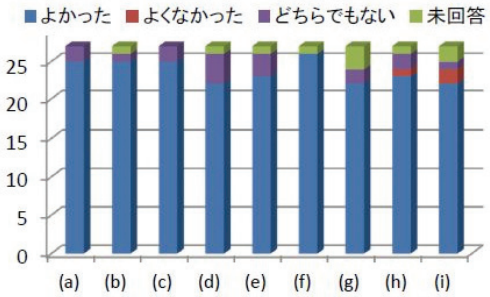
設問9. 次回開催時は、どの参加形態を取りたいですか？

7　(a) 口頭発表
5　(b) ポスター発表
15　(c) 聴講
1　未回答



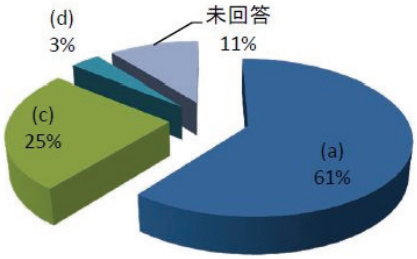
設問10. 本研究会に関する以下の事案について、どのように思われましたか？

	よかった	よくなかった	どちらでもない	未回答
(a) メール通知	25	0	2	0
(b) 受付、会場設営	25	0	1	1
(c) 要旨集冊子	25	0	2	0
(d) プログラム構成	22	0	4	1
(e) 発表の時間配分	23	0	3	1
(f) 当日の進行	26	0	0	1
(g) お茶菓子など	22	0	2	3
(h) HPの見やすさ	23	1	2	1
(i) HPでの事前登録	22	2	1	2



設問11. 参加登録者リストを専用HP内へ掲載することに対してどう思われますか？

17　(a) 継続した方がよい
0　(b) 廃止した方がよい
7　(c)「非公開希望」が選択できるので
　　あれば掲載してもよい
1　(d) その他
　　・どちらでもよい
3　未回答

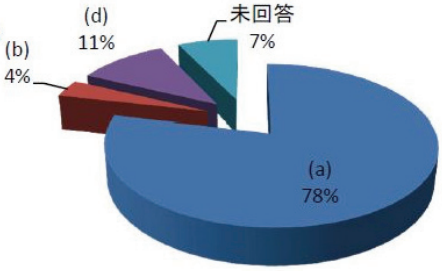


[※ご意見]
・所属は「公開」、氏名は「非公開」を希望選択できるとよいのではないか。

（Fig. 3　続き）

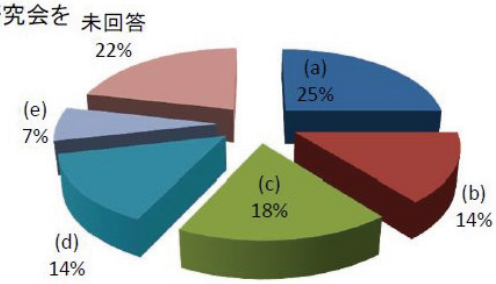
設問12. 今後、本研究会を開催することについてどう思われますか？

22 (a) 継続した方がよく、今後も参加したい
1 (b) 継続した方がよいが、今後は参加しない
0 (c) 廃止した方がよい
3 (d) どちらでもない
2 未回答



設問13. 今後、あなたの所属地区・部局の主催で本研究会を開催することについてどう思われますか？

7 (a) 主催したい
4 (b) 主催したくない
5 (c) 各部局の当番制で主催するのであれば主催してみたい
4 (d) 主催してみたいが、所属部局では対応出来そうにない
2 (e) その他
6 未回答

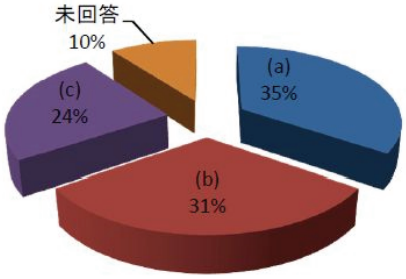


設問14. 今後、どの範囲（レベル）までを対象として本技術研究会を開催した方がよいと思いますか？

※複数回答あり

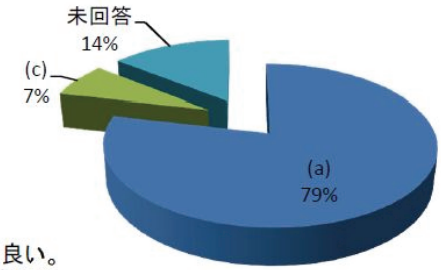
10 (a) 今年度同様、九州大学内まで
9 (b) 九州地区の大学・高等専門学校・研究機関等まで
7 (c) 全国の大学・高等専門学校・研究機関等まで
3 未回答

[※ご意見]
・当面は (a) を支持。
・まず (b) 、いずれ (c) へ。



設問15. 本研究会の開催が九州大学技術系職員にとって必要なことだと思いますか？

22 (a) 思う
0 (b) そうは思わない
2 (c) どちらでもない
(d) ご意見
4 未回答

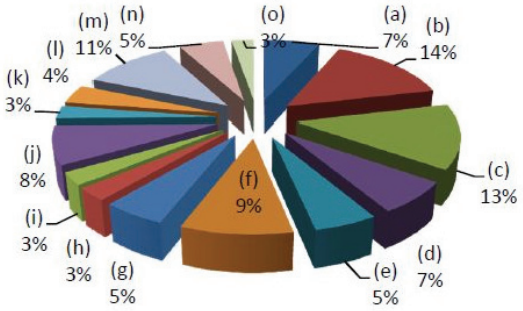


[※ご意見]
・他の技術職員の仕事内容、立場が分かって良い。
・ただ専門の発表だと学会で発表すればよいと思う。
・もっと様々な分野の技術職員の参加を促すような呼び掛けが必要？
・必要だと思うが、分野別に開催すれば参加者も増える可能性があるのでは？

（Fig. 3　続き）

設問16. 今後、どのような分野・分科の発表を聴講してみたいですか？（複数回答可）

5 (a) 機械工作・金属加工
11 (b) 装置関連
10 (c) 回路・計測・制御
5 (d) 極低温・高圧ガス関連
4 (e) 情報・ネットワーク
7 (f) 分析・評価技術
4 (g) 生態・農林水産
2 (h) 生命科学〈医歯薬〉
2 (i) 看護学・スポーツ科学・生活科学
6 (j) 実験・実習、地域貢献
2 (k) 建築・土木関連
3 (l) 材料・生物工学
8 (m) 環境・安全衛生管理
4 (n) 物理・地球惑星・気象・海洋関連
2 (o) その他
・風車の構造、材料 ／ 関連分野以外の分野



設問17. 九州大学技術研究会に対するご意見・ご感想・ご要望をお書き下さい。（※順不同）

・このような取り組みは貴重で良い刺激となった。横のつながりを大切にしたいと思った。

・もっともっと全学的に発展するようにしたい。

・今後、医歯薬農など、今回発表のなかった分野が参加して、更に活発な技術研究会になってほしい。いずれ九州地区、全国規模の技術研究会に発展することを期待している。

・他の方と交流もできて大変良かった。／参加できて良かった。

・これを機会に充実した研究会となることを願う。今回は質問時間がやや少ない気がした。

・アンケート結果を専用HPに公表してほしい（公表案内メールを今回の参加者に連絡してほしい）。

・セッション毎に2-3分野に分けると、色々な分野の方も参加できるのではないかと思った。

・専門的な話ではなく、関連する基礎的な発表内容にしてほしい（理解ができず興味が持てない）。

・セッション間の時間を長めに取れば、講演者への質問・議論が可能。

・喫煙者にとって、6階から屋外への移動は大変。会場を1階もしくは2階にすることを希望する。

・技術職員の発表はもっとソフトでないといけない。技術職員の仕事は多岐に亘っており、専門外の事をデータ発表されても興味が持てない（そうじゃない人もいた）。発表フォーマットを変更してはどうか？全般的（基礎的）な話：実験や装置・データの話＝7:3 など。
専門的な話だけだと、参加した人は興味を持てない。また来年開催時、今年の参加者に尋ねられて「専門の話ばかりだった」となると年々参加者は減少すると思う。それより、色々な人がいて、色々な仕事をしていて、色々な話しが聞けて面白かったというようになってほしい。

・第1回九州大学技術研究会の開催、準備お疲れ様でした。ありがとうございました。
（一行にまとめましたが、類似の内容を多数いただきました。こちらこそ多謝です。）

（Fig. 3 続き）

【 第1回九州大学技術研究会（2010年度） 実行委員会より 】

この度は、本研究会へのご参加ならびにアンケートへのご回答、誠にありがとうございました。
今回集計された「アンケート結果」は、本研究会参加者の皆様から寄せられた "貴重なご意見" として、次回以降の開催に出来る限り反映させていく所存でおります。

ただし、次回以降の開催において、より多くの皆様方にご参加いただけるようにするためには、今回ご参加いただいた方々のアンケート結果だけを反映させるのではなく、諸般の都合により今回ご参加いただけなかった方々のご意見も、非常に重要であると認識しております。

そのため、現状分析ならびに今後の課題／検討案として、現時点において思い付く事案を以下に列記させていただきました。

・適当な開催時期でなかった（業務多忙、他のイベントと重なっていた）

・次週に九州大学教室系技術職員研修が控えていた

・筑紫地区までが遠い

・旅費や休暇などにかかる事案

・教員や同僚への気兼ね、配慮

・全国や九州地区で開催されている技術研究会などに興味／関心がない

・本研究会自体に興味／関心がない

・聴講したい／興味が持てる講演題目がない

・ポスターセッションがない

・伊都地区／箱崎地区での開催なら参加する

・年度末以外なら参加する

など・・・

次回、第2回九州大学技術研究会（2011年度）の開催にあたり、本学技術系職員の皆様方へ上記の事案を含めたアンケート調査を実施させていただければと、現在計画を進めております。ウェブ上から簡単にアンケートへご回答いただけるように準備／整備いたします。時期が参りましたら、改めましてご連絡させていただきますので、今しばらくお待ちいただきますよう、お願いいたします。

なお、本技術研究会に関するアンケート調査を実施する際は、皆様方にお手数をお掛けすることになり大変恐縮ではございますが、ご協力いただけると幸いです。よろしくお願いいたします。

（Fig. 3　続き）

第１回九州大学技術研究会（2010年度） アンケート集計結果
－ 第２回 －

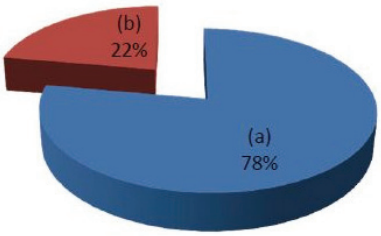
第1回九州大学技術研究会（2010年度） 実行委員会

対象者　：第1回九州大学技術研究会（2010年度）にご参加いただけなかった方々
回答期間：2011年 5月17日（月） ～ 2011年 5月27日（金）
回答者数：27名（箱崎：2名 ／ 病院：7名 ／ 筑紫：2名 ／ 大橋：2名 ／
伊都：10名 ／ その他：4名）
設問内の表示順 ：回答数 ， 設問選択肢（＋ご意見） ， 円グラフ

（※）設問2・3は、設問1にて ”(a)知っていた” を選択された方のご回答のみを反映

設問1. 今年（2011年）2月に応力研技術室が主催した「第1回九州大学技術研究会（2010年度）」のことを知っていましたか？

21　(a) 知っていた
6　(b) 知らなかった
0　未回答



設問2. 第1回九州大学技術研究会の開催時期（2月下旬）は適当でしたか？ （※）
（設問1. で ”(a)知っていた” を選択された方にお伺いします）

10　(a) はい
10　(b) いいえ
1　未回答

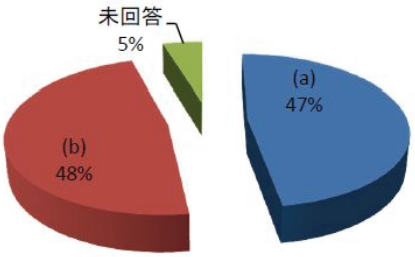
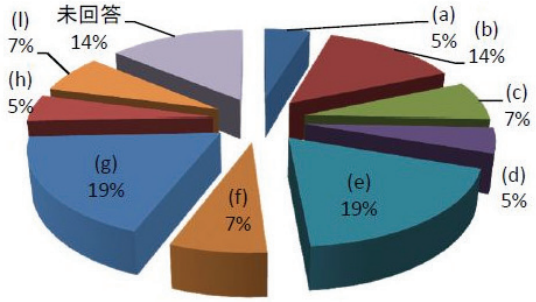


Fig. 4　第 1 回九州大学技術研究会（2010 年度）にかかるアンケート結果（不参加者向け）

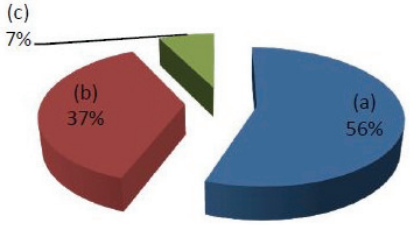
設問3. 第1回九州大学技術研究会に参加しなかった理由は何ですか？（複数回答可）（※）
（設問1. で ”(a)知っていた” を選択された方にお伺いします）

2 (a) 研究会自体に興味がなかった
6 (b) 発表内容と自分の仕事に関連性がなかった
3 (c) 興味が持てる発表が見つからなかった
2 (d) 他のイベントと重なっていた
8 (e) 筑紫地区まで遠いと感じた
3 (f) 旅費や事務手続きの問題（部局の事情で年休を取らなければ参加できない等）
8 (g) 開催時期の問題（年度末・卒論／修論時期で多忙だった等）
2 (h) 当日参加できるかギリギリまで確定できなかった
0 (i) 教員や上司・同僚への気兼ね
0 (j) 教員や上司・同僚に参加を止められた
0 (k) 口頭発表のみでポスターセッションがなかった
3 (l) その他・ご意見
- 研究系業務に対しての個人的な不調・意欲低下
- 各部局の事務部を介しても通知してほしい
- 参加できないと思っていた。
6 未回答



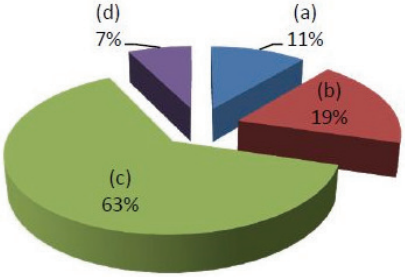
設問4. 今まで、技術系職員が主催する他の技術研究会（全国規模を含む）に何回参加したことがありますか？

15 (a) 一度も参加したことがない
10 (b) 1 – 3回
2 (c) 4 – 6回
0 (d) 7 – 9回
0 (e) 10回以上
0 未回答



設問5. 次回、九州大学技術研究会が開催された場合、どういう形態なら参加しようと思いますか？

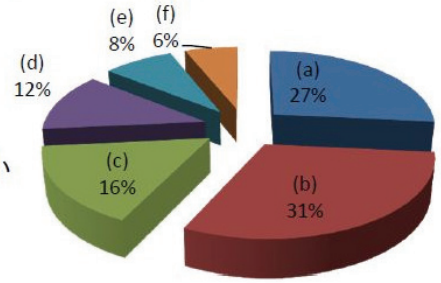
3 (a)「口頭発表」なら参加したい
5 (b)「ポスター発表」なら参加したい
17 (c)「聴講だけ」なら参加したい
2 (d) 参加しようと思わない
0 未回答



（Fig. 4　続き）

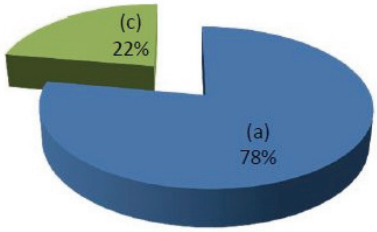
設問6. どこの地区で開催されれば参加しようと思いますか？（複数回答可）

13　(a)「伊都地区」なら参加したい
15　(b)「箱崎地区」なら参加したい
8　(c)「病院地区」なら参加したい
6　(d)「筑紫地区」なら参加したい
4　(e)「大橋地区」なら参加したい
3　(f) 開催地区に関係なく参加しようと思わない
0　未回答



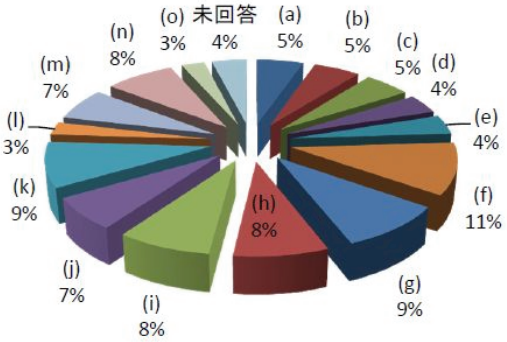
設問7. 発表者の講演内容によっては参加しようと思いますか？

21　(a) はい
0　(b) いいえ
6　(c) どちらとも言えない
0　未回答



設問8. どのような分野・分科の発表を聴講してみたいですか？（複数回答可）
（設問7. で "(a)はい" を選択された方にお伺いします）

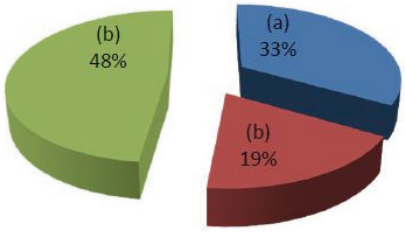
4　(a) どんなテーマでも聴講してみたい
4　(b) 機械工作・金属加工
4　(c) 装置関連
3　(d) 回路・計測・制御
3　(e) 極低温・高圧ガス関連
8　(f) 情報・ネットワーク
7　(g) 分析・評価技術
6　(h) 生態・農林水産
6　(i) 生命科学〈医歯薬〉
5　(j) 看護学・スポーツ科学・生活科学
7　(k) 実験・実習、地域貢献
2　(l) 建築・土木関連
5　(m) 材料・生物工学
6　(n) 環境・安全衛生管理
2　(o) 物理・地球惑星・気象・海洋関連
0　(p) その他
3　未回答



（Fig. 4　続き）

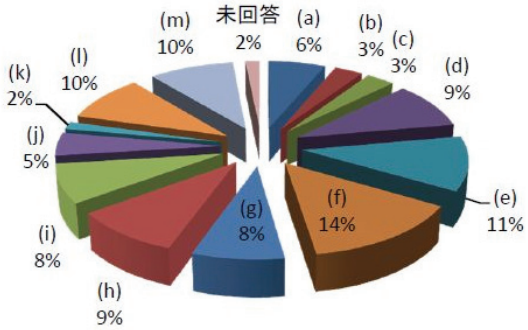
設問9. 発表は分野別に開催した方がよいと思いますか？

9　(a) はい
5　(b) いいえ
13　(b) どちらでもよい
0　未回答



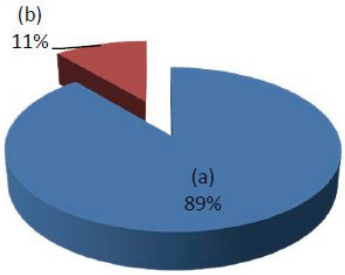
設問10. 次回開催は、いつ頃が参加しやすい／参加できそうですか？（複数回答可）

4　(a) いつでもよい
2　(b) 4月
2　(c) 5月
6　(d) 6月
7　(e) 7月
9　(f) 8月
5　(g) 9月
6　(h) 10月
5　(i) 11月
3　(j) 12月
1　(k) 1月
6　(l) 2月
6　(m) 3月
1　未回答



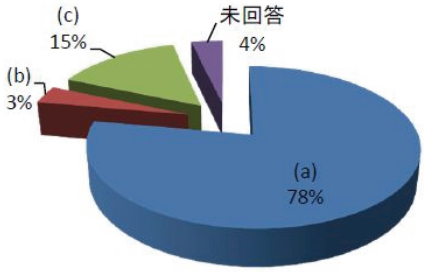
設問11. 今後、本研究会を開催することについてどう思われますか？

24　(a) 継続した方がよい。今後は参加したい
3　(b) 継続した方がよいが、今後も参加しない
0　(c) 廃止した方がよい
0　未回答



設問12. 本研究会も含め、技術系職員を対象とした各種研究会を九大で「開催する」ことは、
九大技術系職員にとって必要なことだと思いますか？

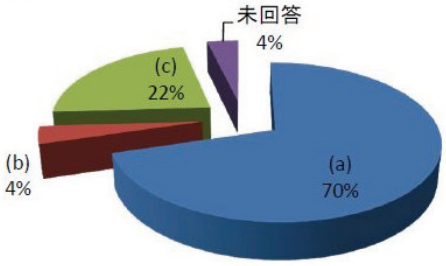
21　(a) 思う
1　(b) そうは思わない
4　(c) どちらでもない
1　未回答



（Fig. 4　続き）

設問13. 本研究会も含め、技術系職員を対象とした各種研究会に「参加する」ことは、
九大技術系職員にとって必要なことだと思いますか？

19　(a) 思う
1　(b) そうは思わない
6　(c) どちらでもない
1　未回答



設問14. より多くの方が本研究会に参加してもらうためには、どのような点を改善したらよいと思いますか？

・部門別にしないと、参加しにくい。興味があれば他の部門を聞いてもいいのだろうけど、関心なければ無駄な時間。興味ある人だけが、そこに行けばいい話。

・様々な分野の発表や、業務に関する講義を取り入れたらよいと思う。

・多くの分野での発表を増やす

・研究分野ごとの研究会

・業務の一環として参加しやすい環境を作ること。

・発表を分野別に分けると良いかなと思います。

・「より多くの方」の参加を期待するならば、やはり開催場所がポイントかと思います。
難しいとは思いますが、どこの地区からも行きやすい場所。
もしくは一年間に二回別々の地区で開催する（春季・秋季）とか？

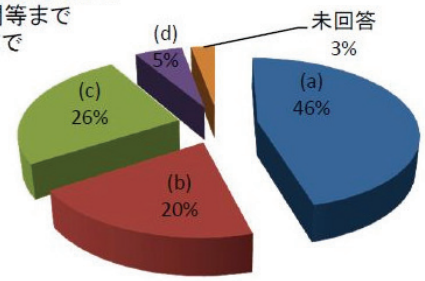
・皆さんの参加しやすい開催時期を選び、興味も持ってもらえそうな講演内容を設定する。

・発表内容のレベルをある程度提示する。あまりレベルの高い（経験豊富な技術職員）テーマばかりが発表になると退いてしまうのではないか。今までこのような発表（レベルが低いと言っている訳ではありません）もありましたが、これも大歓迎ですよといった風に。

・事務手続き上、技術職員が研修に参加しやすくする事が必要。そのための予算を確保。

設問15. 今後、どの範囲（レベル）までを対象として本技術研究会を開催した方がよいと思いますか？
（複数選択可）

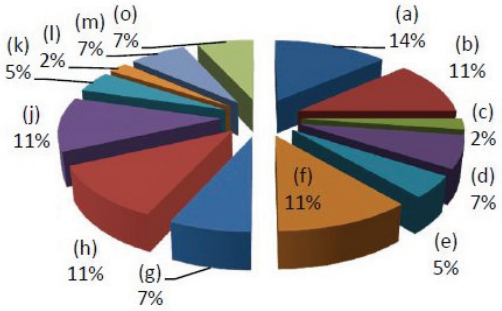
16　(a) 昨年度同様、九州大学内まで
7　(b) 北部九州地区の大学・高等専門学校・研究機関等まで
9　(c) 九州地区の大学・高等専門学校・研究機関等まで
2　(d) 全国の大学・高等専門学校・研究機関等まで
0　(e) ご意見など
1　未回答



（Fig. 4　続き）

設問16. 日頃従事されている職種を教えてください。（複数回答可）

6　(a) 機械工作・金属加工
5　(b) 装置関連
1　(c) 回路・計測・制御
3　(d) 極低温・高圧ガス関連
2　(e) 情報・ネットワーク
5　(f) 分析・評価技術
3　(g) 生態・農林水産
5　(h) 生命科学<医歯薬>
0　(i) 看護学・スポーツ科学・生活科学
5　(j) 実験・実習、地域貢献
2　(k) 建築・土木関連
1　(l) 材料・生物工学
3　(m) 環境・安全衛生管理
0　(n) 物理・地球惑星・気象・海洋関連
3　(o) その他
　　－ 研究外での運営協力
　　－ 事務・船舶・潜水
　　－ 火山（主に温泉）・地震
0　未回答



設問17. 九州大学技術研究会に対するご意見・ご要望などありましたらお書きください。

・こういう発表もいいけど、一番肝心な所は内容じゃなく本人がやってるかどうかだと思います。この発表だけで、本人評価にはならないと思います。それよりも全技術職員が同じ土俵の技術士がいいと思います。それを全学揚げて頑張るのが、社会的にも本当に本人が努力した証にもなると思います。みんなが研究できる環境にある訳じゃないし、かと言ってその人が能力がないからそういう場所に、配置された訳でもないから。

・教室系技術職員研修が実施されているのに、研究者ではない技術職員に研究会の意味は全くないとは思わないが、目的は何なのでしょうか？

・技術系の職員が、多い職場は研究会を、行って行けばよいと思う。

・遠隔地（島原市）に勤務し、日々の業務に追われていますと、福岡に出向くのは一大決心が必要です。向学心を持ち、重い腰を上げるように心がけたいと思います。

・この研究会を企画したり、発表したり、参加したりした人には個人の職務評価がなされ昇級などに反映されるよう事務方に申し入れてほしい。

【 第1回九州大学技術研究会（2010年度） 実行委員会より 】

この度は、本研究会へのアンケートにご回答いただき誠にありがとうございました。
今回集計された「アンケート結果」は、皆様から寄せられた "貴重なご意見" として、次回以降の開催に出来る限り反映させていく所存であります。

（Fig. 4　続き）

Fig. 5　第 2 回九州大学技術研究会（2011 年度）の開催ポスターとウェブサイトの外観